

REPORT | ビジネスグループ向けMICEエクスカージョンツアー

「下総国一宮・香取神宮と江戸優り佐原を巡る日本遺産の旅」を開催



【行程表】

8:38	東京駅発（高速バス）
10:20	佐原着
10:40	香取神宮 昇殿参拝体験(水郷筑波国定公園)
11:40	昼食 ルアン
13:20	小野川舟運体験

13:50	伊能忠敬記念館見学
14:20	かき氷スタンプラリー体験
15:00	切り絵体験 佐原アカデミア
16:20	茶屋花冠本店
17:00	油茂製油
17:40	佐原駅発～東京駅（高速バス）

● 大丸有で MICE を開催するビジネスグループ向けエクスカースションメニューを体験

2022 年 8 月 3 日（水）、DMO 東京丸の内は、大手町・丸の内・有楽町エリア（以下、大丸有エリア）で MICE（Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition/Event の頭文字を取ったもので、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称）を開催するビジネスグループ向けのエクスカースションメニューとして、千葉県香取市にある佐原で「江戸優り（まさり）佐原モニターツアー」を開催しました。

2600 年以上の歴史を有する下総国一宮・香取神宮とともに育まれてきた佐原は、江戸情緒あふれる町並みが今もなお残る美しい町です。江戸時代、町中を流れる利根川の支流である小野川は、舟運の要衝として佐原の町を大きく発展させ、その隆盛ぶりが江戸をしのぐほどのものであったことから、「江戸優り」と劇歌で歌われるようになったといわれています。

佐原は、関東で初めて重要伝統的建造物群保存地区に選定された町で、小野川沿いには木造の町家や蔵、洋風建築など、当時の風情をそのまま残した稀少な建物が立ち並んでいます。江戸時代から続くスベクタクルな山車行事「佐原の大祭」（ユネスコ無形文化遺産登録）、この町の名主であり、日本初の実測日本地図を作り上げた測量家・伊能忠敬の旧宅（国指定史跡）や登録博物館（所蔵の関係資料 2345 点が国宝指定）、日本三大厄除大師の観福寺（日本遺産認定）。町を歩けば、脈々と受け継がれてきた歴史と息づく文化を肌で感じることができます。今回は、そんな佐原をめぐる MICE エクスカースション・モニターツアーの模様をお届けします。



● 別格の格式を誇る香取神宮の昇殿参拝から1日がスタート

佐原へのアクセスは、東京駅発着の高速バスで約1時間半。電車を乗り継いで行くこともできますが、バスの車窓を流れる自然豊かな景色を眺めながら、くつろぐ時間は至福のひとつです。今回、現地を案内してくださったのは、佐原商工会議所のまちづくり観光室長・椎名喜予さんと特定非営利活動法人佐原アカデミア事務局（以下、佐原アカデミア）の菅井章さん。DMO 丸の内事務局長の藤井宏章ら、エクスカーションツアーの参加メンバーはバスで佐原駅に到着した後、お二人と合流し、最初の目的地である香取神宮へと向かいました。



初代神武天皇の御代に創建されたといわれる香取神宮は、下総国（千葉県北部）で最も社格の高いとされる神社・一宮で、全国約 400 社の香取神社の総本社です。徳川家康の開府以来、東国三社の一社として多くの人に親しまれてきました。日本書紀にも登場する武術の神様「経津主大神（ふつぬしのおおかみ）」を祀り、勝運・道ひらきなど、剣の靈威のご加護があるといわれています。「神宮」と名のつく神社は現在いくつもありますが、平安時代から明治時代に至るまでの日本において、伊勢神宮のほかに神宮の名称を使うことが許されたのは、香取神宮とそのペアとして関東の東を護る鹿島神宮だけでした。このことから、別格の格式を誇る神社であることがわかります。

森に囲まれた神秘的な旧参道を 500 メートルほど歩くと、右手に総門、左手には鮮やかな朱塗りの楼門が見えてきます。楼門は、本殿同様、元禄 13 年に造営され、昭和 58 年に重要文化財に指定されました。楼上の額は、偉業を指揮した連合艦隊司令官長・東郷平八郎の筆によるものです。玉砂利を敷きつめた境内には、推定樹齢 1000 年以上の巨大杉の御神木、源頼朝の祖先である源頼義が祈願した際に 1 本の杉が 3 本に分かれたと伝えられる三本杉がそびえ立ち、その奥に鎮座する社殿は黒を基調とした重厚な趣で、極彩色を施した彫刻をいっそう際立たせています。一行は、本殿を遥拝できる瑞垣御門など、社殿の周りを散策したのち、拝殿に上がって昇殿参拝を体験し、心が洗われるような清々しい気持ちに。佐原での素晴らしい一日が始まりました。



● 五感で楽しむ発酵フレンチ ～江戸末期の味醂蔵を改修したレストラン「LE UN」～

「佐原商家町ホテル NIPPONIA」（以下、NIPPONIA）は、佐原の町全体をひとつのホテルに見立て、築 100 年以上の商家を含む 3 つの棟が町に点在するユニークな宿泊施設です。2021 年 3 月に NIPPONIA の新たな顔としてオープンしたレストラン「LE UN（ルアン）」は、300 年以上に渡り、伝統の製法で日本酒・味醂の醸造を手がけてきた馬場本店酒造の南蔵を使って作られました。NIPPONIA 支配人の香田彬彦さんによると、この蔵は江戸末期に味醂蔵として使われていたそうで、柱や窓枠などには手を加えず、当時のままの味わい深い趣を醸し出しています。

ルアンでは、新鮮な地元食材を使い風味を生かす「テロワール・エ・ナチュール」をテーマとした発酵フレンチを味わうことができます。この日のランチは、馬場本店酒造の「最上白味醂」を使用したノンアルコール味醂トニックからスタート。前菜、スープに続くメイン料理は、魚料理・肉料理の両方か、どちらか一品選べる 2 種類のコースがあり、デザートと食後のドリンクも付いています。平日にもかかわらず、女性客や家族連れなどで賑わい、84 席のテーブルはほぼ満席でした。五感で楽しむお料理の一部をどうぞご覧ください。



前菜 香取産トウモロコシのバヴァロワ ローズマリー風味 スモークの香る帆立のマリネ



千葉県産カボチャのオリエンタル風ポタージュ



(肉料理) 千葉県産 SPF ポークのローストとブティサレの温製サラダ
スイカと青唐のラビゴットソース



レストラン「LE UN」には、洗練された趣のバーが併設しています。



● 佐原の町並みを一望できる「小江戸さわら舟めぐり」で水上散歩

続いて、佐原の町並みを観光用の小舟からゆったり眺めることができる「小江戸さわら舟めぐり」を体験。伊能忠敬の旧家が建つ河岸から小舟に乗ると、ベテランの船頭さんが見事な舟さばきとガイドで、小野川沿いの水上散歩を楽しませてくれます。小舟は忠敬橋、共栄橋、開運橋など、いくつもの橋の下を通り、小野川が利根川と交わる手前にある万代橋あたりまで来ると、Uターンしてもと来たルートを再びめぐります。運が良ければ、開運橋を越えた付近にある線路の下を通る際、走る電車の姿を頭上に眺めることもできます。

時間にして約 30 分。川沿いを縁取るように、さらさらと揺れながら川面に枝を落とす柳、土蔵造りの商家や千本格子の民家など、どこか懐かしさを感じさせる景色が目の前に広がります。景観に配慮するため、川の兩岸には木の柵が立てられてあり、電線類は地中に埋められ、電柱も撤去されています。小野川には約 100 匹のカルガモが生息しているそうで、真夏日のこの日は、川べりで涼んでいるカルガモを数匹見かけました。もう少し涼しくなると、白鳥の姿も見られるのだそうです。初夏には花菖蒲やアヤメ、秋にはコスモスなど、移ろう季節とともにさまざまな花が織りなす風景を楽しめるのも、この舟めぐりの醍醐味です。冬になると、舟上にこたつを設置した「こたつ舟」が運行するので、ほっこりしながら佐原の景色を堪能することもできます。



次に向かったのは、「チュウケイ先生」の愛称で地元の人々に親しまれている測量家・伊能忠敬の記念館。館内での写真撮影は一部の展示室を除いて禁止されているため、写真でご覧いただけないのが残念ですが、この記念館では、17歳で佐原の伊能家の婿養子となり50歳まで佐原の名主・村方後見を務め、この町の礎を築いた前半生、そして、50歳を過ぎてから日本全国を測量して歩き、日本最初の実測日本地図「大日本沿海輿地全図」（伊能図）を作り上げた後半生の貴重な資料をじかに見ることができます。同館が所蔵する2345点の「伊能忠敬関係資料」は、平成22年6月29日に国宝に指定されており、香取市が所有する伊能図や実際に使われた測量器具なども含まれています。



● かき氷、切り絵体験、くつろぎの茶屋。佐原ならではの魅力を満喫

佐原は近年、夏になると「かき氷の町」として人気を集めています。2021年に続き、今年も7月1日から9月30日まで「かき氷コレクション in 佐原 2022 スタンプラリー」が開催中とのこと、一行も体験してきました。このイベントは、スタンプラリーの参加店でかき氷を食べ、各店舗のQRコードをスマートフォンで読み取ってスタンプを6つ集めると、かき氷用のマイスプーンがもらえるというものです。スタンプ台紙にスタンプを押してもらえる紙バージョンも用意されており、「デジタルと紙、どちらか好きな方を選べるのは、素晴らしい心配りだと思う」とツアーの参加メンバーから好意的な意見が挙がりました。

かき氷激戦区の佐原で、今年スタンプラリーに参加したのは12店舗。その中でも、椎名さんが一押ししてくださったのが、明治時代の町家を改装した和モダンな空間「甘味処 いなえ」の「和三盆すだち」です。シルクのように薄く削られた繊細なかき氷、それでいてふんわりした柔らかさがあるのは、4℃で凍らせた氷を使っているからなのだそうです。和三盆を使ったシロップにすだちを搾っていただくかき氷は、奥深い甘みとすだちの爽やかな香りと酸味が相まった優しい味でした。



「甘味処 いなえ」のかき氷「和三盆すだち」



MICE エクスカーションツアーも、いよいよ終盤。今回の案内人の一人、菅井さんの拠点である佐原アカデミアに伺い、「切り絵体験」を楽しみました。ご指南してくださったのは、佐原を代表する切り絵作家の野口正博さん。佐原の美しい町並みや自然をモチーフにした野口さんの切り絵は、郷土愛にあふれる繊細で心安らぐ作風が特徴的です。テレビなどのメディアにも度々出演されており、佐原のプロモーションの一翼を担っています。

アヤメ、船頭、土蔵など、野口さんが用意してくださったさまざまな図案の中から、各自が好きなものを選び、色画用紙の上に図案を重ね、陰影などのディテールをカッターで切り取っていきます。「カッターは鉛筆を持つように持って、細かい部分から先に切っていくとやりやすいです」「角になった部分は、カッターを動かすのではなく、図案を載せた画用紙をぐるっと回して切りましょう」。野口さんの手ほどきを受けながら、一同は黙々と作業に集中。その姿を見た野口さんは、「東京の中心で忙しくされている皆さんにとって、切り絵は新鮮なのかもしれませんね」とにこやかに話してくれました。



完成した切り絵は、佐原の思い出としてお土産にいただきました。



最も複雑な図案を選んだ藤井は、1時間をかけて切り絵を無事完成させました。



最後に訪れたのは、プリン専門店として人気を集めている「茶屋花冠本店」。地元の特別な卵のみを使って作ったプリンは、プリンピックの優勝候補にも選ばれるほどの絶品です。和と洋が不思議に融合した店内は、オーナーの松本栄文さんの美意識が凝縮されたミュージアムのような空間。松本さんは、日本の伝承・伝統文化の普及に努める料理家、作家、二子玉川の会員制美食サロン「花冠陽明庵」の主人、食品学者などいくつもの顔を持つ方で、佐原には、茶屋花冠本店をはじめ、茶屋花冠上川岸邸、茶屋花冠ステーキ茶論の3店舗を展開されています。

一行はプリンと紅茶でくつろいだあと、茶屋花冠本店の向かいに建つラー油とごま油の専門店「油茂製油」に立ち寄り、ショッピングを楽しみました。そして日が暮れかけた頃、佐原駅に戻り、高速バスで東京へ。こうして MICE エクスカーションツアー「下総国一宮・香取神宮と江戸優り佐原を巡る日本遺産の旅」は無事終了しました。

大丸有エリアから簡単にアクセスできる立地にある佐原。その魅力を満喫した今回のエクスカーションは、大丸有エリアで MICE を開催するビジネスグループ向けのオリジナルメニューとして磨き上げ、WEB サイトでもご紹介する予定です。DMO 東京丸の内では今後も地域との連携を高めながら MICE 誘致を進め、地域の魅力を皆様に感じていただける企画を検討・実施してまいります。